



No. **32**

**SEIJI TOGO MEMORIAL  
SOMPO JAPAN MUSEUM OF ART**



2

# PICASSO

la métamorphose de la forme

## 幻のジャクリーヌ・コレクション ピカソ展

2004年9月4日[土]—10月24日[日]

1. 闘牛士 1970年 個人蔵
2. 椅子に座る赤と青の帽子の女 1939年 個人蔵
3. 父性愛 1971年 個人蔵

Photo:ImageArt Antibes (France) © 2004-Succession Pablo Picasso-SPDA (JAPAN)



3

# ピカソ展

「ジャクリーヌは、長い年月、つねに、そこにおいて、かれと同じ生活を生き、一つの風土を創り出し、家のなかに、あの特別な雰囲気、半ば絵、半ば愛の、すべて絵、すべて愛のあの雰囲気をかもし出してきたのだ。絵の悲劇は、彼女の悲劇であり、すべての絵に、彼女の顔がある。彼女は、到るところに置かれている。」(エレヌ・パルムラン著、瀬木慎一・松尾国彦訳『ピカソは語る』造形社、1977年より)

ジャクリーヌはピカソの2番目の妻でピカソの最後の20年間を献身的に支えた女性です。彼女の支えてピカソは制作に集中することができました。1952年に71歳のピカソが南仏の陶器工房で働くジャクリーヌ・ロックと出会ったときには彼女はピカソより45歳年下の26歳でした。離婚して6歳の娘を持つジャクリーヌはスペイン語を話すことができピカソと意気投合し、1961年に80歳のピカソと結婚します。ピカソは1973年に91歳の生涯を閉じ、1,885点の油彩、7,089点の素描、4,659点の素描のある149冊のスケッチブック、1,228点の彫刻、2,880点の陶器、18,095点の銅版画、6,112点のリトグラフ、450万ドルの現金、130万ドルの金塊、2,400万ドルの株・債券、2つの城、3つの豪邸などを遺産として残しました。相続税としてフランス政府に物納されてパリのピカソ美術館の基礎となったもの(絵画203点、素描1,500点、彫刻158点、陶器88点、版画1,600点など)以外を6人の相続人(ジャクリーヌ、クロード、パロマ、マヤ、マリーナ、ベルナルド)で分け、ジャクリーヌはその3割(マリーナとベルナルドが各2割、クロード、パロマ、マヤが各1割)を相続しました。美術作品の相続は、いくつかの作品が各相続人の希望を取り入れて選別され、残りがくじ引きで配分されました。ジャクリーヌ・ピカソは1986年に亡くなり、彼女の希望で作品の一部がピカソ美術館に遺贈されましたが、このジャクリーヌ・コレクションは、ピカソが愛着を持って亡くなるまで手元にとどめていた貴重な作品群の中からジャクリーヌが希望して相続した自身の肖像画や、初期から晩年までの作品をバランスよくカバーしています。「キュビズム」「新古典主義」「シュルレアリスム」を経て、人体のフォルムを自由に変容させる独自の様式を形成するピカソの偉大な創造の軌跡を辿ることができます。日本ではこれまでに、1981年と1984年にマヤ・コレクションのピカソ展が、1981年、1983年、1986年にマリーナ・コレクションのピカソ展が開催されていますが、一番数多くの作品を相続したジャクリーヌ・コレクションの全貌は非公開で、その作品群は門外不出とされてきました。昨年のパリでの展示に続いて、日本で初めて、ジャクリーヌ・コレクションから人物像を中心とする油彩60点と彫刻3点、水彩・素描を含む約120点を一堂に展示します。

## ギャラリー・トーク

[一般対象]

●9月11日[土] 13:30～ ●9月17日[金] 17:30～

●9月24日[金] 17:30～ ●10月8日[金] 17:30～

[小中学生と父兄対象]

●9月18日[土] 13:30～ ●10月2日[土] 13:30～

- 4.トルコ風の衣裳をまとうジャクリーヌ 1955年 個人蔵  
 5.緑色と黄色の帽子をかぶった座る女 1962年 個人蔵  
 6.白い襟の子供(ポールの肖像) 1922年 個人蔵  
 7.座る男 1917年 個人蔵

Photo:ImageArt Antibes (France) © 2004-Succession Pablo Picasso-SPDA (JAPAN)



## INFORMATION 2004.9—2005.4

2004 SEP. ピカソ展	OCT.	NOV. 佐野ぬい展	DEC. 所蔵作品展	2005 JAN.	FEB. DOMANI	MAR. 選抜奨励展	APR.
<b>ピカソ展 幻のジャクリーヌ・コレクション</b>		2004 9/4[土]—10/24[日] 9/20・10/11は開館	2004 12/10[金]—1/16[日] 12/27—1/4は休館、1/10は開館	2005 1/21[金]—2/24[木]	2005 3/10[木]—4/14[木] 3/21は開館	一般:1,000円(800円) 大・高生:600円(500円) シルバー:800円	20世紀美術における最高の知名度を誇る画家パブロ・ピカソ。ピカソの最後の妻ジャクリーヌ秘蔵コレクションより油彩60点、彫刻3点を含む約120点を展示する。ほとんどの作品が日本初公開。
<b>佐野ぬい展 遠い様式・青の構図</b>		一般:500円(400円) 大・高生:300円(200円)	1960年代から70年代にかけて東郷青児は世界各国を旅し、訪問先のエキゾチックなイメージが作品に投影されるようになる。北アフリカなどの地中海沿岸の国々からの影響を探る約55点を展示。	一般:500円(400円) 大・高生:300円(200円)	文化庁が実施している「芸術家在外研修(新進芸術家海外留学制度)」の成果を発表する場として毎年開催される展覧会。第8回目の本展覧会は写真と版画部門で研修した9名の作品を展示する。	一般:500円(400円) 大・高生:300円(200円)	2003年9月から2004年8月までの各美術団体の絵画部門における「損保ジャパン美術財団選抜奨励賞」受賞作品と、全国の推薦委員によって推薦された作品を展示し、会場審査で各賞を授与する。
<b>所蔵作品展 東郷青児と地中海の国々</b>		2005 1/21[金]—2/24[木]	2005 3/10[木]—4/14[木] 3/21は開館	一般:500円(400円) 大・高生:300円(200円)	2003年9月から2004年8月までの各美術団体の絵画部門における「損保ジャパン美術財団選抜奨励賞」受賞作品と、全国の推薦委員によって推薦された作品を展示し、会場審査で各賞を授与する。	一般:500円(400円) 大・高生:300円(200円)	2003年9月から2004年8月までの各美術団体の絵画部門における「損保ジャパン美術財団選抜奨励賞」受賞作品と、全国の推薦委員によって推薦された作品を展示し、会場審査で各賞を授与する。
<b>DOMANI・明日展2005</b>		2005 3/10[木]—4/14[木] 3/21は開館	2005 3/10[木]—4/14[木] 3/21は開館	一般:500円(400円) 大・高生:300円(200円)	2003年9月から2004年8月までの各美術団体の絵画部門における「損保ジャパン美術財団選抜奨励賞」受賞作品と、全国の推薦委員によって推薦された作品を展示し、会場審査で各賞を授与する。	一般:500円(400円) 大・高生:300円(200円)	2003年9月から2004年8月までの各美術団体の絵画部門における「損保ジャパン美術財団選抜奨励賞」受賞作品と、全国の推薦委員によって推薦された作品を展示し、会場審査で各賞を授与する。
<b>第24回 損保ジャパン美術財団 選抜奨励展</b>		2005 3/10[木]—4/14[木] 3/21は開館	2005 3/10[木]—4/14[木] 3/21は開館	一般:500円(400円) 大・高生:300円(200円)	2003年9月から2004年8月までの各美術団体の絵画部門における「損保ジャパン美術財団選抜奨励賞」受賞作品と、全国の推薦委員によって推薦された作品を展示し、会場審査で各賞を授与する。	一般:500円(400円) 大・高生:300円(200円)	2003年9月から2004年8月までの各美術団体の絵画部門における「損保ジャパン美術財団選抜奨励賞」受賞作品と、全国の推薦委員によって推薦された作品を展示し、会場審査で各賞を授与する。

●月曜休館／開館:午前10時～午後6時[ピカソ展のみ金曜は午後8時まで]／入場は閉館の30分前まで ●( )内は20名以上の団体料金/シルバー料金は65歳以上/中学・小学生無料

## TOPICS

## 第27回損保ジャパン東郷青児美術館大賞授賞式開催

## 池口史子《ワイン色のセーター》が受賞

6月10日損保ジャパン本社ビルにて、第27回損保ジャパン東郷青児美術館大賞受賞者池口史子(いけぐちちかこ)の授賞式が開催されました。選考委員の嘉門安雄、陰里鐵郎、米倉 守、夫の堺屋太一、美術関係者、マスコミなど数多くの方が参列されました。女性作家の受賞は後藤よ志子、馬越陽子、島田鮎子、佐野ぬいに続いて5人目となります。受賞作である《ワイン色のセーター》(『2003年両洋の眼展』出品作、145.5×112.1cm)は、これまで描いてきた静寂感漂う異郷の風景画と静物画から人物画の新境地を開く作品のひとつとして注目されました。受賞記念の展覧会は2005年の秋に当館で開催されます。



## ホノルル美術館「日本とパリ」展に当館所蔵作品2点を出品

アメリカのホノルル美術館で4月8日から6月6日まで開催された「日本とパリ:印象派、後期印象派と近代」展へ当館所蔵の2作品、ゴーギャン《アリスカンの並木路、アルル》と岸田劉生の《自画像》を出品し、その期間当館ではホノルル美術館よりゴーギャンの《タヒチの浜辺の女たち》が展示されました。「日本とパリ」展には歴代3位の入場者数である25,000人以上の観覧者が訪れました。



## 「モダンアートの女性美 東郷青児展」開催報告

3月10日から4月11日まで菱川師宣記念館(千葉県安房郡鋸南町)で「モダンアートの女性美 東郷青児展」が開催されました。見返り美人図の記念館に、当館所蔵の東郷青児の油彩、水彩、デッサンなど44点が展示され、3,265人の入館者が訪れました。時代は異なりますが、大衆の中に生きモダンでロマンチックな菱川師宣と東郷青児の共演は、多くの来館者を魅了しました。



## 皇后陛下ポナール展ご鑑賞

6月11日、皇后陛下は、「ピエール・ポナール展～彩られた日常～」をご鑑賞のため、当美術館を行啓され、平野理事長と、展覧会の共同主催社である清原産経新聞社社長がお出迎えました。陛下は、1936年作の「庭」など、鮮やかな色彩の作品ひとつひとつに足を止められ、この展覧会の監修者である成城大学千足教授の説明を、時折ご質問を交えて、熱心にお聞きになられました。



絵画をご鑑賞ののち、陛下は平野理事長らとご歓談され、1時間弱の行啓を終えられました。

本展は19世紀末を代表する画家、ピエール・ポナール(1867年～1947年)の、国内外の油彩、スケッチなど約70点を集めて、損保ジャパン東郷青児美術館で4月29日より、6月30日まで開催されました。

# 佐野ぬい展 遠い様式・青の構図

2004年10月30日[土]—12月5日[日]

1977年に創設された損保ジャパン東郷青児美術館大賞は、「技術的に優れている」「感覚が新鮮である」「独自の世界をもっている」の3点を選考基準として、全国の美術関係者約30名から推薦された作品の中から優秀な絵画作品を発表した作家1名に毎年授与され、当館で受賞作家の個展を開催しています。第26回受賞者の佐野ぬいは1932(昭和7)年青森県弘前市生まれで、半世紀にわたり母校である女子美術大学で後輩の指導にあたられ、新制作協会会員として活躍されています。

今年の『損保ジャパン美術財団選抜奨励展』審査会で「世相を反映してか暗い絵が多い。モノトーンよりも色を使って描くことの方が技術的に難しいのです」と語る佐野ぬいの作品は「佐野ぬいブルー」と呼ばれる特注の澄んだ青色絵具を基調としながらも、ジャズの即興のように幾つかの色面が軽快なリズムで響きあう画面を形成しています。これらは色どうしの配置構成についての作家の長時間にわたる思考を感じさせない軽やかな仕上がりとなっています。故郷である津軽の「吹雪の白」「早春になって雪が溶け、ふっと現れる青い空、林檎の赤、ねぶた祭りの強烈で豊かな赤」などが原風景として、また「戦争中は無彩色の思い出ばかりで、終戦になって回りが急に明るくなり、すべてのものが美しく見えました」と語るように、幼少時の環境も作家の色彩に対する研ぎ澄まされた感性に影響を与えているのかもしれませんが。

本展覧会は作家の高校・大学時代の作品から最新作までの約70点が展示されます。大学1年生の時に日本で初めて開催された『マチス展』を見て鮮やかな色彩の対比とフランスのエスプリに感銘を受けます。1950年代には幻想的な半抽象イメージの作品や、アンフォルメルの影響を受けた厚塗りの作品を制作していました。1960年代の「ダークブルーの系列」シリーズから抽象的となり、タイトルに青が使われ、色面構成にス

ピード感のある運筆が伴うようになります。

1966年に開催された『現代アメリカ絵画展』に出品されたエネルギー感あふれる作品群からも強い刺激を受けます。

1970年代の「対比する青い面積の構図」シリーズでは、モダン・ジャズに惹かれてリズムカルな響きを筆捌きに、演奏の掛け合いを色面どうしの響き合いに対応させ、都会的で洗練された画面を作り上げています。1980年代の「動く抽象地図」

シリーズでは、世界地図を広げながら異国的な場所への好奇心を膨らませて仮構の風景を捉えています。色面对比にストライプ柄やアルファベット文字、グラフィティ効果も追求されるようになります。1990年以降はカラージュ技法を駆使し、肩の力を抜いた爽やかな作風へと突き抜けていきます。大賞受賞作『二つの青のシネマ』などの最新の作品では丸みを帯びたいくつかの青の色面を浮遊させ、赤、黄などでアクセントをつけた奥行きを伴う小宇宙を構築しています。



二つの青のシネマ 2002年



ニューヨークでブルーノート・ウィークリー 1991年



青と白のスクウェア 1995年



ブルーマンと薔薇 2004年



お問い合わせハローダイヤル

03(5777)8600

財団法人損保ジャパン美術財団 損保ジャパン東郷青児美術館  
160-8338東京都新宿区西新宿1-26-1 損保ジャパン本社ビル42階  
電話=03(3349)3081[代表]/ファックス=03(3349)3079  
ホームページ=http://www.sompo-japan.co.jp/museum/  
交通=JR 新宿駅西口、丸ノ内線 新宿駅・西新宿駅、大江戸線  
新宿西口駅より徒歩5分

損保ジャパン東郷青児美術館ニュース No.32

発行日=2004年9月24日

発行=財団法人損保ジャパン美術財団

損保ジャパン東郷青児美術館

デザイン=松吉太郎

印刷=凸版印刷株式会社

